

PICK UP!!

お 職員の推し本



はじめてのキャンプ



林 明子 さくえ

はじめてのキャンプ

林 明子 / 福音館書店

表紙の女の子（なほちゃん）が、近所のともこおばさんや大きいお兄さんお姉さんたちと一緒に、はじめてのキャンプに挑戦するお話です。

大きい子たちと同じことをしたいのに、「ちっちゃい子はだめ！」なんて言われて悔しくて、色んなことにチャレンジするなほちゃんの姿が微笑ましくとても可愛い！

「これだからちっちゃい子は…」と言いながらも手助けしてくれる大きい子たちと、いつでも優しく見守ってくれるともこおばさんも素敵です。

林明子さんの作品は、どれも子どもが生き生きとしていて心が温まります。他の作品もぜひ読んでみてくださいね♪

めんどくさいは、あっていい。

ゆうき ゆう / 清流出版

私は何かを行動するまでとにかく遅いほうで、何事にも「めんどくさい」と感じてしまいます…

この本は精神科医である著者が「めんどくさい」という感情について、メカニズムや付き合い方、「めんどくさい」を生かす究極の方法についてレクチャーしています。読み進めていくうちにしただって、「めんどくさい」という感情は欠点ではなく、人間の本能だという事がわかり、気持ちが軽くなりました。

「めんどくさい」と上手く付き合って、前向きな日々を過ごしたいものですね～。



あの夏の日

葉 祥明 (よう しょうめい) / 自由国民社

1945年8月9日、午前11時2分、長崎市北部の松山町に、原子爆弾が投下されました。

「わたしは、ナガサキ／わたしは、すべてを受け入れてきました」 ナガサキが、あの夏の日を静かに語ります。

青と緑、光に彩られたあの夏の日。それが一発の爆弾で断ち切れ、吹き飛び焼き尽くされ、瓦礫になり…やがて平和を求める心に繋がっていく様を、葉祥明さんは、美しい絵とやさしい文章で、祈りをこめて描いています。

この本が描かれたのは2000年、被爆55周年という節目でした。それから更に26年。この季節に、もう一度読み返したい1冊です。

